

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1493700205
法人名	スマイルケア有限会社
事業所名	スマイル藤が丘
訪問調査日	2015年3月5日
評価確定日	2015年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700205	事業の開始年月日	平成24年4月1日		
		指定年月日	平成24年4月1日		
法人名	スマイルケア有限会社				
事業所名	スマイル藤が丘				
所在地	(227-0043) 横浜市青葉区藤が丘1-40-19				
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護		登録定員	25 名	
			通い定員	15 名	
			宿泊定員	9 名	
		☐ 認知症対応型共同生活介護		定員 計	名
			ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成27年2月24日	評価結果 市町村受理日		平成27年5月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自治会や地域包括支援センター等の地域資源と連携して、地域交流に力を入れています。また、当施設の1階部分が、横浜市地域交流拠点モデル事業としての活動とも連携しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年3月5日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域で安心して暮らせるように、在宅生活を基本にディサービス、訪問サービス、宿泊サービスを組み合わせて、利用者や家庭の環境に適合したサービス提供を目的に設立された「スマイルケア有限会社」が営む事業所の1つが「スマイル藤が丘」です。基本理念は、高齢者が住み慣れた地域で暮らして行けるよう「お一人おひとりの気持ちに寄り添います」、「決して笑顔を忘れません」、「利用者とのふれ合いを大切に、生きる喜びを共有します」、「お世話するではなく、生きる支援をします」を掲げ、ニコニコと明るく、思いやりが感じられる施設ですとの家族の声を背に、親身に介護に取り組んでいる事業所です。利用者の心身の状況や希望に応じる体制も備えています。特徴の1つに、2階並びに3階は小規模多機能型介護サービスのスペースですが、1階は横浜市から運営委託を受けた多世代交流サロンとなっております。このサロンは地域の活性、助け合い、様々な活動の打ち合わせ等の利用や、子供から子育て世代、障害を持った方や高齢者の家族など多くの方々の活用を目的した場所で、「スマイル藤が丘」と併せて、地域福祉活動の拠点となっています。事業所の所在は、東急・田園都市線藤が丘駅より徒歩5分程の坂の上の住宅地の一角にあります。周囲は戸建ての住宅が整然と並ぶ静かな場所に位置し、少し離れた場所には昭和医大・藤が丘病院や谷本小学校、藤が丘公園、駅前公園等もあり、環境にも恵まれたところです。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	スマイル藤が丘
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に張り出しており、出勤前に必ず確認し、実践につなげている。	理念の「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らして行けるよう支援します」「お一人お一人の気持ちに寄り添います」「決して笑顔を忘れません」「利用者様とのふれ合いを大切に、生きる喜びを共有します」をタイムカード設置前と事務所にも掲示し、日々目に触れ、確認できるようにしています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・もえぎ野地域ケアプラザ等の行事に積極的に参加しています。また、年一回、近隣の方々を呼び込んで、お祭りを開催しています。1F 地域交流スペースを地域のボランティアや近隣住民に開放しています。	自治会の夏祭りや近くの「もえぎのケアプラザ祭り」の見物、その手伝いにスタッフも参加し交流を図っています。年1回の当「スマイル藤が丘祭り」には地域の方にも案内して、野菜販売店や模擬店を出店をしたり、ボランティアの大コマ回し、フラダンス等の披露もあり、大変賑わい、利用者は楽しんでいます。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の包括支援センターと連携し、介護のつどいや認知症キャラバンメイトの講座を開催して、地域住民の方々に参加して頂きました。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催をしている	2ヶ月に1回、自治会長、もえぎのケアプラザ職員、民生委員、利用者とその家族の参加を得て開催しています。運営状況報告、地域の行事説明の後、懇談が行われています。そこでは、徘徊者を見かけた際の対応の仕方、牛乳の無断配布についての注意喚起等の話が出て検討しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	青葉区役所、高齢者支援担当福田様{藤が丘担当}と蜜に連絡を取り合っています。	横浜市地域福祉・交流拠点モデル事業の場所ともなっていることから、区役所との連携が図られています。小規模多機能型居宅介護事業所連絡会では市の担当者との接点もあります。包括支援センターから介護に関しての説明会講師の依頼や見学者受け入れの話し等で頻繁に連絡を取り合っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を施設内で実施している。	拘束をしない方針を当初に利用者及び家族に説明しています。外部研修にも参加して、その重要性を確認し徹底に努めています。建物の利用は2階並び3階で外出等の際はエレベーターを使用しています。エレベーターは手動で利用者の意向等、必要に応じて作動することにしており、玄関の施錠はしていません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を施設内で実施している、。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を実施したり、青葉区役所の職員にも指導を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、必ず全て読み上げ、理解と納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を大切にし、ケアプランに反映するように努めている。	送迎時に尋ねたり、家族との連絡ノートを通して確認するようにしています。家族から家では寝ないので日中に運動をさせて欲しい、足腰が弱ってきてるので散歩をさせて欲しい等の要望があり、天気の良い日は極力近くの公園や買い物や、もえぎのケアプラザの催し物見学に誘い、外出する機会を増やすよう努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を定期的に実施し、意見等を集約し反映させている。	3ヶ月に1回の割合で個人面談を実施し、自由に意見を出してもらうようにしています。喫煙者の対応についてや、休憩時間の調整についての要望が出てきたケースでは、全員で検討し、ルール化を図り、速やかな対応を心がけています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標を持って、仕事に従事している。定期的に面談をし、働きやすい職場環境を構築できるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内の他の施設で研修したり、外部研修へ積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小規模多機能連絡会に参加して、情報交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安をなるべく早く取り除き、安心できる空間になるように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なんでも話して頂けるような雰囲気づくりを心掛けている。必要に応じて報告、連絡を密にし信頼感を持っていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に適した対応をしている。支援内容に支援内容に優先順位をつけ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・散歩・会話などを通して生活を共にしていることを実感していただいている。自ら行う行為に対してそっと見守り、必要に応じて支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等、気軽に立ち寄れる環境を整えている。	以前に活動していたグループの人や、近所付き合いの有った人が尋ねて来ます。送迎の際に、どこそこに寄りたいとの要望が出てくることも有ります。家族の同意を得てなるべく意向に添えるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や思いを把握し、疎外感を感じることなく暮らすことができるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談には応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の生活感を崩さずに、その人らしい生活ができるような支援を心掛けている。	介護記録や管理ノートを確認しながら希望や意向を把握するようにしています。ケアマネの家庭訪問の際の情報も活用するようにしています。活用する情報に関しては客観的で有るかどうかも管理者がチェックしながら活かすようにしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、今までの生活歴や生活環境をしっかりと把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が、観察力を持ち意識している。気づきについて介護記録へ記録し、情報の共有・把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、ご本人様・ご家族様・主治医・職員の意見をお聞きしプランを立てている。	先ず、状況、課題、必要検討事項、決定方向を盛り込んだ資料に基づき個別カンファレンスを行っています。担当医との連携も良く図られていて、計画立案に際しては意見や報告書を頂いています。寒い時期には体調を崩す方も多いため、体調管理に拘わる個別事項も加える配慮もなされています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記載。全職員に伝わるように申し送りの徹底。また、介護計画が常に見えるように記録の上に閉じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能のサービスの最大のメリットでもある柔軟なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もえぎ野地域ケアプラザと連携し、ボランティアの受け入れをおこなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の主治医と連携し、体調管理や急変時の対応についても支援をしている。	宿泊者のみ月2回の往診を受けています。整形外科のリハビリを受けている方もいますが、本格的治療が必要な方には自宅で受けてもらっています。往診医の診察に基づく処方箋は、薬局で各人毎に仕分け分類してもらい、管理の徹底を図っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全て報告し、記録も参照して頂き、適切なアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医、ご家族様と十分な連絡を取りながら御本人様の状態、希望に沿った退院後の介護方針を検討し、提案している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の思いやご家族様の意向、主治医の意見を踏まえて、納得のいく方針を決めている。	この1年間で4名の方の看取りの経験を有しています。対象には宿泊利用の方、訪問介護の方と種々のケースがありますが、医師、看護師、家族と良く相談しながら状況に応じた対応をするようにしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導で、研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回（偶数月）に避難訓練を実施。	年2回は消防署立ち会いの下で防災訓練を実施しています。建物は鉄筋コンクリート造りで、避難外階段も設備されています。指定避難場所は近くの谷本小学校で、消防署も近くに有ります。近隣にスタッフ数名が住んでおり、万一の際の応援も受けやすい状況に有ります。備蓄も3日分ほど確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持って接する。個人情報については職員間で留意するように徹底している。職員間では様をつけて対応している。	利用者の人格を尊重し、利用者の立場で介護に努め、声掛けなどにも注意を払うようにしています。スタッフ間での情報の共有はもとより、定期的に注意を喚起する話し合いも行っています。利用者の中には隣席の人の食事に手を伸ばす方もいますが、その場合も諭すように話しかけるようにしています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、気持ちや思いを組み取る。個々の利用者が自己決定できるような言葉かけに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って、個別で対応している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼力・嚥下力に配慮し、調理・盛り付けをおこなっている。	「食事を楽しんで頂こう」との方針で、調理担当専門職員を配置しています。身体状態に合わせてミキサー食、刻み食を準備しています。アレルギーの方には別メニューで提供しています。行事食はバイキング仕様にしたり、また外食にも年2回程度出かけ、楽しんでもらっています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分量チェックし、記録している。ご本人様の状態に合わせて調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、仕上げ磨きを実施している。夕食後は、義歯をお預かりし、消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のチェック表で管理をしている。自尊心に配慮し、対応している。不安や羞恥心、プライバシーに配慮している。	排泄チェック表を用い、声掛けや促しを行っています。家庭での対応の違いも有るので、ご家族と連絡を取りながら個々人に合った対応を図るようにしています。殆どの方が自立排泄で、その維持のためのリハビリ体操や行動を取り入れることを心がけています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、運動するように心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人様の思いやご家族様の意向、主治医の意見を踏まえて安心でき、納得のいく方針を決めている。本人様のペースで入れるよう支援している。希望に応じて対応できるようにしている。	入浴は、週2回のサイクルで利用してもらっています。入浴を好まない方もいますが、入浴の効果を話したり、工夫をしながら勧めています。感応度の低下した方には、色や臭いを感じてもらおうよう入浴剤を使用することも有ります。バイタルチェックで要注意の場合は連絡ノートでご家族に伝えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の居室内の保清に努めている。良眠していただけるように湿度等を注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、全員把握できるように徹底している。確薬の徹底。調剤薬局の管理薬剤師に服薬の助言を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を配慮しながら楽しめるレクリエーションを考えている。午前は、体操中心で、午後は、娯楽中心にレクリエーションを計画している。定期的に外食や外出に出掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないが、近隣へ散歩に出掛けている。	周辺は坂があり、外出に考慮する面も有りますが、敷地内の広いスペースを活用したり、駅前公園での散策を行っています。車を利用して、多くの花が有る町田・薬師公園に出かけることもあります。敷地内のスペースを活用して花壇を設け、季節の変化も楽しんでもらう計画もしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ご家族様対応にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は欠かさずおこなっている。玄関やリビングにお花を飾るようにしている。手作りカレンダーにて季節を感じられるように工夫している。	事業所内は広いスペースが確保されていて、午前中は身体を動かす活動、午後は娯楽を中心にお送りまでの時間を過ごしています。地元ボランティアのウクレレやギターの演奏を聴いたり、また、当所の催事にはケアプラザの紹介で他のボランティアの方も見え、みんなで楽しんでいます。手作りカレンダーを掲示したり、季節の飾り付けにも工夫されています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ソファの配置など個々の状態を見ながら、対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊室は、自由に使用していただき、馴染みのものを持ってきていただき、安心した生活を送れるように支援している。	3階に宿泊用個室が9部屋設けられていて、利用者の使い慣れた持ち物を持ってきてもらい、ゆっくりと過ごしてもらうよう配慮しています。迎える体制としては、その都度職員の配置を検討するのではなく、利用者の有無に拘わらず何時でも需要に応じられるように予め決めた職員の配置をしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体能力に応じた行動が自由にできるように努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

スマイル藤が丘

作成日

2015年3月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	外部研修の受講が少ない	職員が、定期的に外部研修に参加できる環境をつくる	法人としての外部研修受講の体制は整っているので職員に情報を伝え、積極的に促していく	1年間
2	13	離職が多い	離職防止の取り組み	各個人ごとに目標を設定し、結果について振り返りをする。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。